学習の流れの例

① 住宅内で起こる火災の出火原因について知る。
② 逃げ遅れによる被害や、その被害のうちの7割以上が高齢者であることを知る。
③ 住宅火災を防ぐために、住宅用火災警報器の設置や、こんろ、たばこ、電気の正しい取り扱い方について確認する。

学習後の生徒の姿

住宅火災の予防方法について、日頃からの些細な気付きが大切だと知り、実際に自宅では何が出来るのか、どこを改善するべきなのかを考えて、活かそうとしている。

指導のポイント

住宅で起こる火災の原因は、日常生活の中での小さな不注意で起こることがほとんどである。日頃から火災を起こさないための工夫や意識を持ち続けることが大切である。適切な火災予防の方法を学ぶことで、自分と家族の身を守ることに繋がると気付かせたい。

●住宅内で起こる火災

横浜市の火災・救急概況によれば、令和5年における火災件数は733件で、前年と比べて94件増加した。また、電気火災の件数も211件で過去最多となっている。火災による死者のうち7割が高齢者であった。住宅火災の割合は年々増加している。

参照：横浜市「令和5年火災・救急概況（速報）」

●住宅用火災警報器

住宅火災による死者の半数が逃げ遅れによるものになっている。逃げ遅れを防ぐためには住宅用火災警報器を適切な場所に設置することが大切。平成25年から令和４年までの10年間における市内の住宅火災状況を分析したところ、住宅用火災警報器が設置されていない場合は、住宅用火災警報器を設置している場合に比べ、火災件数と火災の死者数が増加する結果となった。

〈適切な設置場所〉
- 各寝室・・・天井または壁
- 階段の踊り場・・・天井または壁
- 台所・・・天井または壁

〈感知方式〉
- 煙式(光電式)・・・煙が入ると音や音声で知らせる。
  ➡寝室、階段
- 熱式・・・一定の温度に達すると音や音声で知らせる。
  ➡台所、車庫
- 補助警報装置・・・高齢者の方、目や耳の不自由な方のために、音や光で知らせる。

〈動作方式〉
- 単独型・・・設置している室内だけの警報器の警報音が鳴る。
- 連動型・・・設置されている全ての警報器の警報音が鳴る。

住宅用火災警報器の特性を知った上で家庭環境に合った警報器を選ぶ。 参照：横浜市「住宅用火災警報器」

1章 地震－9［特別編］

住宅内で起こる火災

横浜市では、年間約700件の火災が発生しています。
そのうち約4割が住宅火災となっています。

めあて 住宅内の火災の危険とその対策を学び、火災の被害を少なくする。

◈住宅火災の出火状況

住宅火災の出火原因は、過去22年連続で「こんろ」が1位となっています。人による不注意や、正しく使用していないことで思わぬ火災が発生し、逃げ遅れで命を落とすこともあります。

住宅火災での出火原因 上位3

1 こんろ　2 たばこ　3 電気機器

住宅火災による死者のほとんどは65歳以上の高齢者です。また、その多くは逃げ遅れが原因となっています。逃げ遅れを防ぐためには、住宅用火災警報器が役に立ちます。

逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置しよう

住宅用火災警報器とは、熱や煙を感知して、警報音やメッセージで火災を知らせる機器です。火災を早期発見し、被害を最小限に抑えるために役立ちます。

〈 定期的な点検 〉
感知部分にほこりが付いたり、台所の油や煙で汚れ、火災を感知しにくくなることがあります。こまめに手入れをし、いざというときに正常に作動するよう点検をしましょう。

〈 10年ごとに本体の交換 〉
住宅用火災警報器は古くなると、電池切れや内蔵電子部品の劣化により、火災を感知しなくなります。10年を目安に本体を交換しましょう。

―点検方法―
テストボタンを押す。または引きひもを引く

「3分でわかる！住宅用火災警報器～設置編～」
「3分でわかる！住宅用火災警報器～点検・交換編～」

20

◈火災対策をしておこう

火災のほとんどは、私たちの注意により防ぐことができます。大切な家族の命と住宅を守るため、火災につながる危険を除くことが大切です。

「よこはま防災e-パーク」で学ぼう! 右の二次元コードから、マークに書いてある項目の動画を見てみましょう。

こんろ火災対策

❶調理中はその場を離れない
食用油は、約370℃になると自然発火します。離れる際は、必ず火を消しましょう。

❷こんろ周りに燃えやすいものを置かない
こんろの奥に調味料や調理器具を置いていると着衣着火（着ている服に火が燃え移ること）につながるおそれがあるのでやめましょう。

❸カセットこんろは正しく使おう
2台以上並べて使用したり、こんろを覆うような大きな調理器具を使用すると危険です。

「3分でわかる！住宅防火対策～こんろ火災編～」

たばこ火災対策

❶ 必ず灰皿を使用する
空き缶やペットボトルは絶対に使用しないでください。
❷ 灰皿には水を入れる
❸ 寝たばこは絶対にしない

「3分でわかる！住宅防火対策～たばこ火災編～」

電気火災対策

❶ プラグにほこりをためない
乾いた布で、定期的にふき取りましょう。
❷ コードを適切に使用する
コードがねじれていたり、家具の下敷きになっていると断線し、火災につながるおそれがあります。

「3分でわかる！住宅防火対策～電気火災編～」

① 着衣着火してしまったときの対処法

あわてて走りまわると、かえって炎が大きくなります。

❶ 服を脱げる場合は、素早く脱ぎましょう。
❷ 水をかける・タオルで叩くなどして消火しましょう。
❸ 背中など手の届かない場合は、その場で倒れて、左右に転がりましょう。

監修：横浜市消防局 21

●住宅用火災警報器交換について

すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられたのは2011年。
横浜市では、火災予防運動が始まる３月１日と11月９日を「住宅用火災警報器市内一斉点検の日」として、年２回の住宅用火災警報器の作動点検を推進している。
住宅用火災警報器は、古くなると部品の劣化や電池切れで火災を感知しなくなるため、いざという時にしっかり機能するように、10年を目安に交換しましょう。

参照：横浜市「住宅用火災警報器は設置して終わりではありません！」

●着衣着火

調理中などに、着ている衣服に炎が燃え移ることを着衣着火という。衣類に炎が燃え移ると、やけどによるケガの可能性が極めて高くなる。

〈着衣着火を防ぐポイント〉
- 調理する時はゆったりとした服や袖が広がった服を着ない。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう適切な火力に調整する。
- 火が接しても着火しにくい防炎処理されたエプロンやアームカバーを使う。

参照：横浜市「着衣着火に注意しましょう」

●住宅火災の原因

❶こんろ
火を使う調理器具の不注意が原因となることが多い。火をつけたままその場を離れたり、油が飛び散ったりすることで火災が発生することがある。

❷たばこ
火の取り扱いに注意が必要。火の消し忘れや不適切な処理が原因となることがある。

〈たばこによる火災を防ぐポイント〉
- 吸い殻は水につけて、完全に消えていることを確認してからごみ箱に捨てる。
- カップラーメンの容器やペットボトルなどを灰皿として使わない。
- 防炎加工された寝具類を使う。
- 布団の上でタバコは吸わない。
- 灰皿に水をため、火が消えたことを完全に確認する。
- 風が強い日は、たばこの火種が飛んで火災になる危険性があるため、屋外での喫煙を控える。

❸電気機器

スマートフォンやタブレット等を充電できる予備の電源として、リチウムイオンバッテリーが普及しているが、リチウムイオンバッテリーが原因となった火災が近年急速に増加してきている。

〈リチウムイオンバッテリー使用上の注意点〉
- 新規に購入する際は、PSEマークを必ず確認する。
- 強い衝撃、圧力を加えない、高温の環境に放置しない。
- 膨らんでいる、熱くなっている、変な臭いがするなど、いつもと違って異常を感じたら使用を中止する。
- 充電コネクタの破損や水ぬれに注意する。
- 廃棄する際には他の家庭ごみと区別する。

参照：横浜市「 こんろ火災」「たばこ火災」「電気火災」